

大分労働局長が「ベストプラクティス企業」を訪問しました！

(サッポロビール株式会社 九州日田工場)

大分労働局長（坂田善廣）は、11月の「過重労働解消キャンペーン」の取組の一環として、令和2年11月17日（火）に、時間外労働の削減や年次有給休暇の取得率向上など、働き方改革に積極的に取り組んでいる企業（ベストプラクティス企業）を訪問しました。

コロナ禍の厳しい状況の中ではありますが、本年4月から中小企業等にも時間外労働の上限規制の適用が開始されており、ベストプラクティス企業の取組事例を参考に、引き続き時間外労働の削減等への取り組みをお願いいたします。

○ 今回訪問した企業

企業名 : サッポロビール株式会社 九州日田工場
所在地 : 日田市大字高瀬6979
労働者数 : 77名（令和2年11月1日現在）
事業内容 : ビール等の発泡酒類、清涼飲料水の製造



○ 訪問当日の状況

当日は、下田工場長、南雲副工場長及び宝珠総務部課長代理にご対応いただき、働き方改革の取組状況についてお話を伺った後、職場を巡回しました。

下田工場長は、「働きやすい職場環境が従業員の健康と安全につながり、その結果、良い製品ができる。」とお話されていました。

○ 働き方改革の取組効果

裏面の取り組みを進めた結果、以下の取組効果が表れています。

- 年間所定休日を118日から121日に増加（平成28年～）
- 1人当たりの時間外労働時間数（年間）
154時間（平成28年）⇒ 137時間（令和元年）【17時間の削減】
- 1人当たりの年次有給休暇取得日数（年間）
14日（平成28年）⇒ 16日（令和元年）【2日の増加】



働き方改革の主な取組事例

1 経営トップによる宣言

平成28年に代表取締役高島英也氏が「働き方改革に取り組むこと」を宣言し、全社的に働き方改革の機運が高まりました。

2 「働き方改革推進委員会」を通じた進捗管理

各部署から選出された代表による「働き方改革推進委員会」では、**長期的な定量目標**を定め、**定期的に活動の進捗管理**を行い、**労使一体**となって長時間労働の抑制や年次有給休暇取得の促進を図っています。

3 「止める・減らす・平準化活動」の実施

平成28年から「非効率な作業を止める」、「効率化を図り作業を減らす」等の活動を**労使一体**となって行っています。

(具体的な取組事例)

- ・ 荷物の受取対応を不要とするため、宅配ボックスを設置
- ・ 操作の効率化を図るため、計器モニターを作業現場から執務エリアへ移設
- ・ 多能工化を図るため、製造ライン作業者の担当ラインを計画的に変更 等

4 会議の可視化による効率化

令和元年から会議の頻度、時間や参加者の洗い出しを行い、会議の必要性・あり方を見直すことにより、**会議にかける時間の短縮**を図っています。

令和2年は対前年比16%の会議時間の削減が見込まれています。

5 テレワーク制度の導入 / フレックスタイムのコアタイム廃止

柔軟かつ効率的に働くことができるようになり、時間外労働削減につながっています。

- ※ テレワークやフレックスタイムは、職場や通勤時の接触機会を減らし、コロナ禍における持続的な感染対策にもなっています。



○ 大分労働局より



平成28年に経営トップが働き方改革に取り組むことを宣言したことを皮切りに、「止める・減らす・平準化活動」や「会議の可視化」など、様々な取り組みを労使一体となって推進し、時間外労働の削減や年休の取得促進等につながっています。

また、日頃から従業員の働きやすさを第一に考えた職場づくりに取り組みされており、コロナ禍においても、それらの取組が持続的な企業活動や更なる発展につながっていることを実感しました。